

2012年(平成24年)4月7日(土曜日)

電動シャッター 止まらぬ事故

14年間で10人死亡

学校やビル、ガレージなどに設置されている電動式のシャッターに体を挟まれて、一九九八年からの十四年間で計十人が死亡していたことが七日、共同通信のまとめで分かった。ほかに腕を切断されたり首などを挟まれたりして十四人が重軽傷を負っていた。

業界団体の日本シャッター協会が調査している。

シャッター・ドア協会(東京)によると、全国に二〇〇五年以降、電動式シャッターは少なくなると約三百四十五万台あり、うち自動停止装置が付いていないのは七割の約二百四十万台に上る。

消費者庁は業界団体から事故状況の聞き取り調査を開始。近く設置が予定されている新設のシャッターには取り付けが義務付けられている。消費者安全調査委員会では日本の平均的な防火シャッターは幅三メートル、高

最近の主なシャッター死亡事故

1998年4月	さいたま市(旧浦和市)	小学校で男児(8歳)が首を挟まれ死亡
2003年11月	横浜市	スーパーで会社員(51)が首を挟まれ死亡
04年2月	北海道苫小牧市	工場で作業員(53)が下敷きとなり胸を打ち死亡
4月	大阪市	工場で従業員(56)が首を挟まれ死亡
06年3月	京都市	JR京都駅で男性(69)が腹を挟まれ死亡
08年8月	東京都立川市	書店で会社員(51)が肩と背中を挟まれ死亡
09年4月	愛知県刈谷市	自宅ガレージで女性(66)が腹部を挟まれ死亡
10年10月	北海道釧路市	会社車庫で従業員(55)が挟まれ死亡
12年1月	岐阜県多治見市	車庫で男性(52)が挟まれ死亡
3月	名古屋市	居酒屋入り口で女性(62)が首を挟まれ死亡

さし、四角程度で、重さは百八十キにもなる。国交省によると、九八年にさいたま市の小学校で当時小学三年生の男児(八)が、火災も起きていないのに下りてきた防火シャッターに首を挟まれて死亡。国民生活センターによると、自宅ガレージのシャッターがいついかなる時に自動停止装置が壊れて、シャッターが勝手に降りてきて、人を挟んで死亡するなどの「危険な事例」も一年度度で九十九件あった。

○六年にはJR京都駅きなり下りてきて車が通路でホームレスとみられる男性(六)が腹を挟まれて死亡。今年三月に上下するなどの「危険な事例」も一年度度で九十九件あった。

7割240万台 自動停止装置なし

向殿(むかいどの)政男、明治大教授(安全学)の話、すべてのシャッターに自動停止装置を取り付けることを義務付けるべきだ。また業者には行政指導をして、エレベーターのように定期的な検査をさせなければ、再び事故が起きる恐れがある。シャッターの監督官庁は国土交通省と経済産業省に分かれており、いずれも被害の全体像の把握や検証ができていない。消費者庁が積極的に調査すべきだ。

共同通信は日本シャッター・ドア協会、国交省、消費者庁、国民生活センター、経済産業省所管の製品評価技術基盤機構に取材した。消費者庁が調査を

おらず、公表できる段階にない」と説明している。

シャツターで10人死亡

7割に停止装置なし

全国、98年以降

学校やビル、ガレージなどに設置されている電動式のシャツターに体を挟まれて、1998年からの14年間で計10人が死亡していたことが7日、共同通信のまとめで分かった。ほかに腕を切断されたり首などを挟まれたりして14人が重軽傷を負っていた。

業界団体の日本シャツター・ドア協会(東京)によると、全国に電動式シャツターは少なくとも約345万台あり、うち自動停止装置が付いていないのは7割の約240万台に上る。消費者庁は業界団体から

事故状況の聞き取り調査を開始。近く設置が予定されている新たな事故調査機関、消費者安全調査委員会で取り上げるかどうか検討している。

国土交通省によると、2005年以降、学校や建物の「防火シャツター」には、人に接触した瞬間に5秒以内で停止する自動停止装置の取り付けが義務付けられ

最近の主なシャツター死亡事故

1998年4月	さいたま市(旧浦和市)	小学校で男児(8歳)が首を挟まれ死亡
2003年11月	横浜市	スーパーで会社員(51)が首を挟まれ死亡
04年2月	北海道苫小牧市	工場で作業員(53)が下敷きとなり胸を打ち死亡
4月	大阪市	工場で従業員(56)が首を挟まれ死亡
06年3月	京都市	JR京都駅で男性(69)が腹を挟まれ死亡
08年8月	東京都立川市	書店で会社員(51)が肩と背中を挟まれ死亡
09年4月	愛知県刈谷市	自宅ガレージで女性(66)が腹部を挟まれ死亡
10年10月	北海道釧路市	会社車庫で従業員(55)が挟まれ死亡
12年1月	岐阜県多治見市	車庫で男性(52)が挟まれ死亡
3月	名古屋市	居酒屋入り口で女性(62)が首を挟まれ死亡

た。しかし、それ以前に設置されたシャツターや、自宅などにある「防犯シャツター」には取り付けが義務付けられていない。日本の平均的な防火シャツターは幅3尺、高さ2・4尺程度で、重さは180kgにもなる。

国交省によると、98年にさいたま市の小学校で当時小学3年生の男児(8)が、火災も起きていないのに下りてきた防火シャツターに首を挟まれて死亡。横浜市

では03年、スーパーで会社員が首を挟まれ、また、06年にはJR京都駅通路でホームレスとみられる男性(69)が腹を挟まれて死亡。

今年3月には、名古屋市のビルにある飲食店で女性(62)が首を挟まれて死亡した。3台とも自動停止装置は付いていなかった。

国民生活センターなどによると、自宅ガレージのシ

ャッターがいきなり下りてきて車がつぶれた例や、ガレージのシャツターが勝手に上下するなどの「危害情報」も01年度以降で19件あった。協会によると、既製品ではなく鉄板などで自作したシャツターによる死亡事故も起きている。軽傷事故や不具合情報の概要や件数については「精査されておらず、公表できる段階にない」と説明している。

共同通信は日本シャツター・ドア協会、国交省、消費者庁、国民生活センター、経済産業省所管の製品評価技術基盤機構に取材した。

シャッターで死亡10人

98年以降 消費者庁が調査開始

電動式の7割 停止装置なし

学校やビル、ガレージなどに設置されている電動式のシャッターに体を挟まれて、1998年からの14年間で計10人が死亡していたことが7日、共同通信のまとめで分かった。ほかに腕を切断されたり首などを挟まれたりして14人が重軽傷を負っていた。

業界団体の日本シャッター・ドア協会(東京)によると、全国に電動式シャッターは少なくとも約34万5000台あり、うち自動停止装置が付いていないのは7割の約240万台に上る。消費者庁は業界団体から事故状況の聞き取り調査を開始。近く設置が予定されている新たな事故調査機関、消費者安全調査委員会で取り上げるかどうか検討している。

国土交通省によると、2005年以降、学校や建物の「防火シャッター」には、人に接触した瞬間に5センチ以内で停止する自動停止装置の取り付けが義務付けられた。しかし、それ以前に設置されたシャッターや、自宅などにある「防犯シャッター」には取り付けが義務付けられていない。

日本の平均的な防火シャッターは幅3.5メートル、高さ2.4メートル程度で、重さは180キログラムにもなる。国交省によると、98年にさいたま市の小学校で当時小学3年生の男児(8)が、火災も起きていないのに下りてきた防火シャッターに首を挟まれて死亡。06年にはJR京都駅通路でホームレスとみられる男性(69)が腹を挟まれて死亡。今年3月には、名古屋市のビルにある飲食店で女性(62)が首を挟まれて死亡した。3台とも自動停止装置は付いていなかった。

国民生活センターなどによると、自宅ガレージのシャッターがいきなり下りてきて車がつぶれた例や、ガレージのシャッターが勝手に上下するなどの「危害情報」も01年度以降で19件あった。協会によると、既製品ではなく鉄板などで自作したシャッターによる死亡事故も起きている。軽傷事故や不具合情報の概要や件数については「精査されており、公表できる段階にない」と説明している。

共同通信は日本シャッター・ドア協会、国交省、消費者庁、国民生活センター、経済産業省所管の製品評価技術基盤機構に取材した。

最近の主なシャッター死亡事故

1998年4月	さいたま市(旧浦和市)	小学校で男児児童(8歳)が首を挟まれ死亡
2003年11月	横浜市	スーパーで会社員(51)が首を挟まれ死亡
04年2月	北海道小樽市	工場で作業員(53)が下敷きとなり胸を打ち死亡
4月	大阪市	工場で従業員(56)が首を挟まれ死亡
06年3月	京都市	JR京都駅で男性(69)が腹を挟まれ死亡
08年8月	東京都立川市	書店で会社員(51)が肩と背中を挟まれ死亡
09年4月	愛知県刈谷市	自宅ガレージで女性(66)が腹部を挟まれ死亡
10年10月	北海道釧路市	会社車で従業員(55)が挟まれ死亡
12年1月	岐阜県多治見市	車庫で男性(52)が挟まれ死亡
3月	名古屋市長久手市	居酒屋入り口で女性(62)が首を挟まれ死亡

名古屋市長久手区の女性(62)は3月22日朝、夫(61)と切り盛りする小料理店のシャッターに首を挟まれ、亡くなった。足の具合があまりよくなかった妻。夫は「安全装置さえあれば」と無念に思う。

安全装置さえあれば…

妻なくした 男性の無念

「先に帰っていて」と言われた。

現場は雑居ビルの1階。愛知県警によると、うつぶせでシャッターの下から頭だけが店外に出た状態だった。死因は首を圧迫された。77年当時、既に設置されてきたという。だんじやないか」と推測する。前の晩、妻は「足が痛いと訴えていた。午後11時ごろ、妻を店に残して帰宅。普段は夫が店を閉めるが、この夜に限って

店内にあるボタンを押すと、電動で40秒ほどかかって上下する。障害物に当たった際に自動停止する装置はなかった。開店した1977年当時、既に設置されてきたという。だんじやないか」と推測する。前の晩、妻は「足が痛いと訴えていた。午後11時ごろ、妻を店に残して帰宅。普段は夫が店を閉めるが、この夜に限って

ではない。要望があれば新たに安全装置をつけることもあるが、判断は所有者に任せている」と話す。夫は「下りてくるシャッターをくぐろうとして転んだ。声は詰まらせた。

シャッター事故

14年間に10人死亡

自動停止7割なし さいたままで児童犠牲

学校やビル、ガレージなどに設置されている電動式のシャッターに体を挟まれて、1998年からの14年間で計10人が死亡していたことが7日、共同通信のまとめで分かった。ほかに腕を切断されたり首などを挟まれたりして14人が重軽傷を負っていた。

業界団体の日本シャッターに上る。

・ドア協会(東京)によると、全国に電動式シャッターは少なくとも約345万台あり、うち自動停止装置が付いているのは7割の約240万台

るかどうか検討している。

国土交通省によると、2005年以降、学校や建物の「防火シャッター」には、人に接触した瞬間に5秒以内で停止する自動停止装置の取り付けが義務付けられた。しかし、それ以前に設置されたシャッターや、自宅などにある「防犯シャッター」には取り付けが義務付けられていない。日本の平均的な防火シャッ

ターは幅3段、高さ2・4段程度で、重さは180キロにもなる。

国交省によると、98年にさいたま市の小学校で当時小学3年生の男児(8)が、火災も起きていないのに下りてきた防火シャッターに首を挟まれて死亡。06年にはJR京都駅通路でホームレスとみられる男性(69)が腹を挟まれて死亡。今年3月には、名古屋市のビルにある飲食店で女性(62)が首を挟まれて死亡した。3台とも自動停止装置は付いていなかった。

国民生活センターなどによると、自宅ガレージのシャッターがいきなり下りてきて車がつぶれた例や、ガレージの

シャッターが勝手に上下するなどの「危害情報」も01年度以降で19件あった。

協会によると、既製品ではなく鉄板などで自作したシャッターによる死亡事故も起きている。軽傷事故や不具合情報概要や件数については

「精査されておらず、公表できる段階にない」と説明している。

共同通信は日本シャッター・ドア協会、国交省、消費者庁、国民生活センター、経済産業省所管の製品評価技術基盤機構に取材した。

電動式シャッター事故

98年以降、死者10人

消費者庁 業界団体から調査開始

学校やビル、ガレージなどに設置されている電動式のシャッターに体を挟まれて、1998年からの14年間で計10人が死亡していたことが7日、共同通信のまとめで分かった。ほかに腕を切断されたり首などを挟まれたりして14人が重軽傷を負っていた。

業界団体の日本シャッター・ドア協会(東京)によると、全国に電動式シャッターは少なくとも約345万台あり、うち自動停止装置が付いていないのは7割の約240万台に上る。

消費者庁は業界団体から事故状況の聞き取り調査を開始。近く設置の取り付けが義務付

けられたい。しかし、それ以前に設置されたシャッターや、自宅などにある「防犯シャッター」には取り付けが義務付けられていない。日本の平均的な防火シャッターは幅3メートル、高さは180センチにもなる。

国交省によると、98年にさいたま市の小学校で当時小学3年生の男児(8)が、火災も起きていないのに下りてきた防火シャッターに首を挟まれて死亡。06年にはJR京都駅通路でホームレスとみられる男性(69)が腹を挟まれて死亡。今年3月には、名古屋市のある飲食店で女性(62)が首を挟まれて死亡した。3台とも自動停止装置は付いていなかった。

国民生活センターなどによると、自宅ガレージのシャッターがいきなり下りてきて車がつぶれた例や、ガレージのシャッターが勝手

に上下するなどの「危険情報」も01年度以降で19件あった。協会によると、既製品ではなく鉄板などで自作したシャッターによる死亡事故も起きています。軽傷事故や不具合情報の概要や件数については「精査されて

おらず、公表できる段階にない」と説明している。共同通信は日本シャッター・ドア協会、国交省、消費者庁、国民生活センター、経済産業省所管の製品評価技術基盤機構に取材した。